一般質問

大震災の教訓を どう生かすのか

藤元　雅文　議員

①避難道・避難場所整備の到達点、今後の課題は。
②現時点で何日分の食糧を備蓄し、今後の備蓄計画は。
③倒壊家屋、浸水家屋の推定戸数は。
④瓦礫置き場、仮設住宅の建設地を事前に決め、契約を済ませておくべきだ。
⑤健康管理センター（鬼ヶ岩屋）を売却ではなく避難所として維持管理すべきだ。
⑥罹災証明を速やかに発行するため、職員の訓練が必要ではないか。
⑦アマチュア無線の免許所持者の協力を得られるよう自主防災組織などで提起すべきだ。
⑧緊急時、夜間の着陸を確実、安全に行われるようヘリポートの周辺に照明を置くなど工夫すべきだ。

答　福井町長
①一部を除き概ね必要数を確保できており、誘導表示、夜間照明、手摺の整備は継続的に取り組む。
④瓦礫の仮置き場は内妻公園グラウンド、仮設住宅は牟岐小グラウンド及び山田残土処理場としているが、必要戸数が確保できておらず、民有地、広域連携を検討する。
⑤再度、意見を伺いながら検討する。

答　宮内総務課長
②備蓄食糧は、一人当り1・1食分、飲料水は、一人当りペットボトル500ミリリットル約3本である。今後備蓄量を増やす。
③津波で全半壊する家屋は1280棟と推定している。浸水する家屋はそれ以上だ。
⑥研修・訓練を行う。
⑦さまざまな通信手段の検討・確保に努める。
⑧検討する。

備蓄食糧等（西の山倉庫内）

みんなの力を引き出し 町おこしを

質　藤元議員
各種団体が町おこしに通じるさまざまな事業を取り組んでいる。ここに町おこしのヒントや芽がある。互いの活動を交流し、成果や問題点を共有する場を設けるべきだ。
出羽島アート展、スキューバダイビング事業の中止は、交流人口を増やさなければならない本町にとって残念なことである。何事も不十分な点は改善し、良い点は伸ばすことによって物事は発展させられる。町はどう対応するのか。

答　福井町長
昨年度は、ふるさと創生支援事業に9つの団体が10の事業を実施し、活性化のために汗を流していただいた。今年度事業に活かせるよう交流の場を早急に設けたい。
出羽島アート展、ダイビング事業については、継続のため努力したい。

「部落差別解消推進法案」についての感想は

質　藤元議員
差別解消に有効ではないと特別対策を終えており、新たな差別を生み出す法案は撤回すべきだ。

答　福井町長
新たな逆差別を生むことがないような配慮は必要だ。

答　峯野教育長
法案の成り行きを注視しながら、現行の「徳島県人権教育推進方針」に基づき人権課題の解決に向けた取り組みを進めていく。